

■突然失踪した39歳の女性■

～運送きの恋。パート先で知り合った男のもとへ走った女性～

1度目の結婚には失敗したが、再婚後、農家の嫁として平和に暮らしていた山田かおりさん(仮名)。彼女が、連れ子である娘を置いて突然家を出た。いったい何があったのか? かおりさんと家族が幸せになるための道を考える。

- 仮名：山田さん
- 年齢：42歳
- 性別：男性
- 問題：家出

【夫と連れ子の娘が相談に来た】

埼玉県に住んでいる山田さん(仮名・42歳)は娘(13歳)と一緒にやってきた。娘というのは、失踪した奥さんのかおりさん(仮名・39歳)の連れ子である。「妻が家出して、どこへ行ったか全然わからない」と言う。「うちは人捜しはしないんだ。探偵なら紹介するよ」と言ったが、娘に「ママを捜して」と言われてしまい、表向きは「何もしないよ」と言いながら、探偵と一緒に探してみることにした。中学生の娘は、お母さんが失踪したことで、連れ子で入った家でひとりぼっちになってしまった。でも義父である山田さんとは仲が良さそうではあった。少しの救いである。

探偵には私が捜す場所のポイントを教える。私は探偵業もやっていたから、まず狙いは大体つかめる。余分な経費や金はいかからない。妻のパート先はパチンコ屋の景品交換所だった。景品交換は地味な仕事だが、パチンコ屋の常連、つまり遊び人がやってくる場所だから、いろんな男に声をかけられる。そこで、同僚に「よく来ていたお客さん、どんな人でした?」と話を聞くと、3人ほどの名前があがった。その情報から男の家を見つけるのは簡単だった。

【想像と違っていた再婚後の生活】

その情報から、かおりさんを見つけるのは簡単でも、見つけることによって不幸の連鎖になることもある。とにかく、かおりさんと話をしてみた。「どうして離婚を切り出さないの?」と聞くと、「子供が幸せになれなくなるから」と言う。今までシングルマザーとしてやってきて苦労し、ようやく再婚して、娘を可愛がってもらっている。山田さんの家は農家で、お金持ちなので、自分と一緒に来るよりも、娘は幸せになれるだろうというのだ。ただ、彼女自身は山田さんの家では幸せにはなれないという。再婚して農家の嫁になり、かなり農地もあり、生活は安定している。けれど、朝から晩まで農業の手伝いをし、家事までしなきゃいけない。気難しい舅や姑と同居しているし、親戚づき合いもあり、本人にとっては息がつまるような生活だったという。そのような生活から少し息抜きしたいと考えて、パートに出た。

相手の男性はトラック運転手だった。長く続かないと予想はできる。遊び場で知り合う男女関係は長続きしない。盛り場のクラブでもどこでもそうだ。特に男は遊び癖や賭けごと好きは直らない。結局、破綻することが多いのだ。

【別れを予想し、帰る場所を作ってあげる】

まず3ヶ月は放っておくことにする。とりあえず、「慣れない農作業に疲れ、嫁姑問題でも精神的に参ってしまい、うつ状態になりました。もう2、3ヶ月友人のところで静養させて。勝手をいいますが、必ず帰ります」と夫と娘宛てに手紙を書かせ送らせた。「かおりさんはうつ病になって死のうとしたようだ。でも死にきれなくて、ずっと友達のところで厄介になっている。今、無理矢理引き戻したら、自殺するかもしれない」と伝えた。何度も言うが、ウソも方便である。結局、かおりさんは6ヶ月で家に帰った。男はかおりさんを養うほどの生活力がなかったし、男が「金貸してくれ」と言い始めたとき、目が覚めたのだ。「玄さん、こうなるのがわかったの?」とかおりさんが聞くので「出会いが不純だったから続くわけがない。そもそも、あなたは一時の優しさを求めただけだよ」と答えた。かおりさんにもしっかりとシナリオを作る。「どこにいたんだ?」と聞かれても「友達のところにいた」と言ってそれ以上は言わない。「玄さんのところでボランティアをしたり、介護施設で働かせてもらって、癒された」ということにもした。家に戻った後、山田さんは「すまなかったな。慣れない農業させて」と言ってかおりさんをいたわった。本人が心を改めて、家族が幸せになれるなら、私が秘密を握って、黙して語らずがいい。「あんたのためじゃない。娘に頼まれたからだ」とかおりさんに言った。



仙台支部に車両提供してくれた有限会社シンセイオート代表の相田雄一社長(右)

【ここが POINT】

真実を明らかにして連れ戻すだけでは、お互いが不幸になる。子供は母親を許せないし、夫は妻も男も憎む。特に、このように母親が家出した場合は、どこで落ちをつけるかが問題だ。家出でも失踪でも、問題はその後始末をどうにかしない限り、また同じようなことが起こる。かおりさんは、一生負い目を持つということで、今までの不安や不満が、夫と娘に対する感謝へと変わっていく。このように相手に対する思いやりが生まれてくる。何かあるたびに、自戒の念も蘇ってくる。その自戒は自分だけのものにしておくこと。それを「夫婦だから正直に話そう」となったら、絶対に理解し合えない。幸せな夫婦にはなれない。人はそんな簡単には変われない。でも、自分を変えたいと思ったら、自分の中で創作していくことから始めて、それを演じきる。秘密を守り通すことで、罪を背負って生き、罪を償っていかばいいのだ。